

## 幹本申8号(3月15日)

### 「新幹線総合車両センター業務の一部委託について」に関する交渉を行う！②

3. 台車科一部業務を委託する目的および委託可能と判断した根拠を明らかにすること。また、委託先の請負能力および事故発生時の責任の所在について明らかにすること。

- (組合) シム調整は重大事故ワースト 20「GK破損」に直結する業務だ。委託できるのか？
- (会社) これまでも台車科の業務委託を進めてきた。委託先の実績や技術の蓄積、請負能力などを協議の上で委託を判断した。シム調整についても教育を行うことで委託できると判断した。エンドプレーのみならず、**台車は重要な装置だ。確実に教育を実施していく。**
- (組合) 周期延伸車の全検入場が昨年5月から始まっている。不具合は確認されているのか？台モ二工事の進捗状況は？台モ二がすべて稼働してからの委託ではダメなのか？
- (会社) **周期延伸の不具合報告はない。**台モ二は2025年度末完了の見込み。台モ二は走行中の異常を早期に発見するためであり、**確実なメンテナンスを行えば品質を確保できる。**
- (会社) 会社として進めている施策だ。ミスした個人に責任を転嫁するのではなく、**原因究明と対策を実施していくことが基本**になる。

4. 委託に向けた教育体制およびスケジュールを明らかにすること。また、JRと委託先双方が安全と品質をどのように維持・向上させていくのか考えを明らかにすること。

- (会社) 車輪圧入の教育は一人1ヵ月×3名。教育から委託まで期間が空くため思い出しも行う。それ以降は調整中。委託作業のOJTだけではなく、安全教育や台車メンテナンスの基本、過去の事象などの机上教育も実施する。**JR配属者と同等の教育を行う**予定だ。
- (組合) 不安なまま作業とならないように、習熟度を適宜確認し、JRで見極めを行うこと。
- (会社) **習熟度を確認しながら進めていく。**不安や不足などがあれば、追加教育も行っていく。

5. 委託に伴う要員効果の活用方法および異動・出向の有無について明らかにすること。

- (会社) 委託に伴う出向は発生しない。組織再編もあるので、担務拡大やキャリアビジョン実現に向けた新たな業務など、様々なことに挑戦して欲しい。**必要な要員は確保していく。**
- (組合) 近年、若手社員の離職も発生している。配置変更については本人希望を最大限尊重し、丁寧にコミュニケーションを図った上で実施すること。
- (会社) すべてが本人希望とはならないが**しっかりとコミュニケーションをとって進めていく。**

6. 工程変更が発生した場合、前工程（駆動装置組立）や後工程（軸箱取付）との調整が必要となることから、委託後の工程調整方法および連絡体制フローについて明らかにすること。

- (会社) **監督員と作業責任者間での調整が基本。**監督員業務を担う社員に指導はしていく。
- (組合) 全後工程との調整が多い箇所だ。委託によって非効率とならないようにするべきだ。
- (会社) **一定程度の調整が生ずるのは事実だ。**ケースバイケースにはなるが、委託会社だけでなくJRや他G会社とも連携して取組む。組織再編もあるので**都度状況は確認していく。**
- (組合) 機械設備は譲渡か？貸与か？委託エリアで老朽取替や設備更新の計画はあるのか？
- (会社) JRでの管理となる。老取や更新工事は計画的に進めており、必要な修繕は実施する。

**職場から議論で新幹線の「安全・品質・技術力」を守り抜こう！**